夕刊
九月二十一日發行
（臨祭日翌日休刊）
東京振替一〇六・五八五五番
發行所 磐城新聞社

天氣豫報
小名濱測候所觀測

今晩も明日も北西の風晴薄曇

子規と松山藩（二）

園田生

殊に山鹿素行先生時代の藩主定勝公は山鹿門中の逸材で、自然藩士も大いに學に勵んだ様であつた。赤穗の變に大石主税以下十名の藩士が愛宕下の藩邸に引受けたが後にこれを三田の別邸に移した。故の松方公爵邸がその跡で、眺望の絶佳林泉の美を以て江戸中に喧傳されたといふ。

此の久松邸に幽囚された十士の中には、內藏助が特にその人物を見込んで、少年主税を托したといはれる堀部安兵衛や、坂本其角の俳友として、兩國橋上に。雪中俳問答の話題を殘した大高源吾も居つたのである赤穗の十士は松山藩士が一般に學を勵み修養の淺からぬのを知つて、非常に感じたと傳へられてゐる。これは當松山藩の流れを汲む者の手前味噌ではない特に興のある物語は、幽囚生活中の大石主税と藩士某との奇問答である。某は一日主税に無遠慮に問ふて曰く『明く赤穗德藩の士家三百餘を數ふ。然るに今此の義擧に加はるもの僅かに四十有餘大石、小野寺、間父子、吉田兄弟等數へ來れば僅々幾十家、何ぞ忠臣義士の稀なるや』と、年少氣鋭の主税の此の奇問には多少辟易したが、俊敏なる彼は言下に答へて『此の頭は兎角酒を飲む者が流行らないで武士の發句俳諧に熱中するからでせう』と言つた。主税の答辯を强いて想像して解釋すれば、藩士中好學の人々が、細井廣澤の塾友である堀部安兵衛子や、俳人として一流をなせし大高子葉子等と、親しく談笑歌唔し熟心に學を闘じ詩を談ずるのを見て、强く主税は暗示をうが、文弱頽廢々極めた元祿の士風を直指して藩士が奇問に應へたのではあるまいか。松山藩の好學的風は傳統的と云ひ得られるもので、曾て蘇峰先生も『松山は大藩ではないが維新以後人物の輩出は中々目覺ましいものがあつた』といはれた事がある。要するに俳世界丈けより擧げても、子規子一人でなく、曰く鳴雪曰く虛子、碧梧桐、鼠骨等とかく巨匠の輩出するのは松山がよき文藝の苗床である事を説明する。子規子は孤立せる峻山ではなく、一大山脈の最高峰なのである

私共の少年時代は、書籍も極めて乏しく且つ高價であつたので、多くは借覽したり筆寫につとめたものだ子規子や私共の漢學の師河東坤郎ち靜溪先生の御宅には、相當藏書が豐かであつたので、我々は七歳年少の碧梧桐君を煩はさなかつたが、二才年長の黄塔君に分ふて、一冊借りては讀み終るとすぐ河東家へ伺つて次の一冊と取りかへて順た。當時は十三四才でも史記など讀んでゐたのである後年東京本郷眞砂町の常磐會寄宿舍、舊藩主が特に藩出身の子弟の爲めに設けられたこの寄宿舍では、文部書記官であつた鳴雪先生が監督指導してをられたが明治二十四五年頃の舍生は子規、勝田主計、竹村黄塔横山正修や私等約二十幾名の者であつた。

防空演習の歌

尊風庵主人

○警戒管制山村の靜夜とよもして戸をさし光かくし鎮まりかへる

○無氣味なる沈默の闇つんざきてはげしく聞こゆ空襲警報

○空襲警報やみを破りて聞こえたり小さき灯りのやりどにふ

○星月夜かへる時ゆ見はるかす百戸の村に灯のひとつ無き

○よるに入り炭礦街の光りなく影のみ動く人、車、馬

○六日たき夜の燈火を明かくせし管制あけに無異の日おもふ

伊藤寒山子兄征く

明智金鈴子

○萩のには立つものゝふをはげましぬ

○萩のには掃くにもこの日こゝろせく

○萩のには曉くときかなしわかれなる

○萩にほふまだき句作もちかひ征く

○征ける日は數へ子萩の野につゞく

安ちゃん（七）

石森延男

あの日——たしか冬にちがひない、僕は火鉢にあたりながら見てゐたんだから——安ちやんが繪をかいてゐました。瀬戸の繪具皿に繪具をきれいにといてゐました。繪具は飴のドロップスみたいな形をしたのもあり、クレオンを半分に折つたやうなのもあつて、紅・黄・青、みんな繪具皿にたまつてゐる。それを筆にふくませては礬水半紙に塗る。安ちやんは大きな紙にいつぱい芭蕉の葉をかいてゐました。柔かい線で細い線がなよなよと風にゆれてゐた。そこに蝸牛が一匹のびのびとのびて、うつくしい角をのばしてゐた。

いつになつたら、あんなきれいな繪具がつかへるかしらと、うらやましくてたまりませんでした。繪具の匂ひが好きになつて、今でも繪の話なら飯より好きなんです。

おしまひに僕が安ちやんを思ひ出すことのできる、最初のものをかきませう。

橇に僕が乘せられてゐるんです
その僕が、とても泣いてゐるんです
橇がひいてゐるのは安ちやんです
橇は家の前をいつたりきたりして
僕のさけびは雪明りがして
いや星がいつぱいです

おしいことには、安ちやんのうたふ子守唄を、どうしても思ひ出せない。（終り）

9月22日

△會津落城（明治元）△橫濱に瓦斯燈成る（同三）△名古屋滿洲間の直通無電の試驗をなす（昭和五）

その日〳〵

更けまさる銀河明りや虫の原　野風呂

贈樋口小名濱收入役

珠雲　小野務平

威貌威容不可侵
清廉謹直令嘗欽
若人始善　總理
冰月風懐鐵石心

講談 隱密小天狗（131）

中川雨之氏作　近藤鐵氏畫

滑行く艪聲

『やつたな、そゞ』

忠彌の怒聲が響いた。

見る〳〵俊作は、重圍に落ちてしまつた。前後左右から、同じやうな覆面扮裝が、ちり〳〵と追つて來た。

俊作、心ばかり如何に焦つても、身動きも自由でない病身では、どうすることも出來なかつた。

太く逞しい腕、々、々が襲ひかゝつて來た、それを拂ひ退けて、爭はうとするには、餘りに氣力が衰へてゐた。白刃を逆に、自殺しようとすれば、早くも敵に得物を奪はれてしまつた。やがて。

『無念、殘念』

と叫ぶ俊作の泣くやうな聲が折り重つた敵の體の下から聞えて來た。

『それつ、引揚げろ』

と、忠彌が命じた時、しゆん作の體は、まるで胴上げにでもされて居るやうに高く擔ぎ上げられてゐた。

そして小屋を出て、もと來た道を戻つて行くのか。と思ふと、さうで無く、横手の崖を上つて、それから寮の庭園を抜けて、一同は淵田川の岸邊へと下つてゆくのであつた。

闇の中にさら〳〵と、流れの音が聞えて來た。

『おーい』

と、こちらで呼ぶと河岸の蘆の茂みの中から。

『おーい』

といふ聲がした。

一艘の小舟が、いつの間にか、其處に待ち受けて居た。

『捕へたしゆん作を、船によつて、人知れず正雪屋敷へ運ばう』

といふ最初からの手筈であつたのだ。

俊作は、やがてその船の板の上に轉がされてゐた。手、足を嚴重に縛られてゐるので、どうすることもできなかつた。

否、たとへ縛られてゐないにしても、恐らく最早や反抗するだけの男氣は無かつたであらう。

彼はまるで、死人のやうにヂッとして動かなかつた。

やがて船は岸を離れた。

船の中には、忠彌をはじめ一同が、俊作を護つて乘込んでゐる。

ギイ〳〵と、河面の闇を次第に遠く消えて行く艪聲に、はかない俊作の運命が託されて居るやうであつたが、その艪聲が、まだ半町とは隔つて行かぬ時。

陸では、三郎兵衛が、小屋の前に驅けつけてゐた。

小屋の戸口が、パクリと口を開いたやうに、明け放されてゐた。

首を突込んで覗いてみると、消え殘つた土器の灯が呼吸でもするやうに明滅して居つた。

『やッ、遲かつたか』

思はず戸口を踊り込んだ三郎兵衛、不安に胸を打たれた。

小脇には、しつかと、お蝶の首を抱へてゐる。

小屋の中を見廻したが、人らしいものは見えなかつた。

正面の處では、寢床が藻ぬけの殼になつてゐて、四邊は、なんとなく散亂してゐる。

『しまつた』

と、三郎兵衛は、殘念の舌打をした。

『途中で、お蝶に關はり合せてゐたゝめに、たうとう手遲れになつてしまつた』

と、さう思ふと足摺したいほど殘念でならなかつた

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平市田町（電話五八番）磐田女學校前

齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木政
內郷村高坂 磐炭病院前
鈴木醫院
『入院のお需めに應ず』
（看護婦及ビ見習看護婦募集）

醫學士 吉田久雄
吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番

味鄉のサービスデー
本日よりおでん茶めしを初めました
毎月二十日はおひいき御禮として
お酒とビールをお勉め致します。
サッポロビール 一本卅八錢
白菊正宗 一本十八錢
君德 一本廿八錢
松竹梅 一本五十錢
◇お肴は燒鳥 トンカツ
平市三田小路（三丁目裏）
味鄉（みさと）

重田眼科
眼科一般
眼鏡檢定
平驛前通り 元貯蓄銀行跡
醫師 重田景治
平市田町一番地

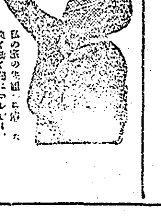
お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油
たひら正宗
鰹節 食料品
醸造元 山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します、
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部
電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します、

根本產婦人科醫院
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（病室完備）
（入院隨時）

新秋爽涼の——
小瀧は招く
一日の清遊には……
どうぞ小瀧鑛泉へ！
鐵道指定旅館
割烹 小瀧鑛泉
電話小名濱一〇三

診療科目
一、齒科一般
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町（芳月堂向ヒ）
中野齒科醫院
（電話五〇九番）
院長 日本齒科醫學士 中野[illegible]
日大齒科醫學士 塩谷伍郎
補綴部主任 佐藤重義

生公華
漢方のくすりは
効力本位

[illegible]
お店が特約販賣所です。
[illegible]
てお求め下さい。

市取賣店
山野邊藥局
平市五丁目（電話六八六）

看護婦 見習看護婦
敷名募集
（希望者御來談下さい）
新川町
婦人科 五十嵐醫院

ラヂオの故障は——
放送局指定相談所へ
御買求めは……
測定裝置 技術完備の弊店へ
日本放送協會指定
ラヂオ相談所
HK型受信機配給所
富永ラヂオ店
平驛前 電話四九六番

鐵の心意氣！
非常時局下を打診

歐洲大戰當時に於ける獨逸國民に凡有る『金』を國家の爲に捧げ悉くし、鐵の指輪を用ふる事によつて最大限の緊迫した銃後意識を自戒自肅したと云ふ。愈よ所謂長期建設に入つた今日、お互の心意氣はどうあらうか、卑近な二三の事實に就て地方の動きを眺めて見る

季節關係もあるが 酒は消費量增大
タガの締らぬ左黨

節約を語る場合第一に槍玉にあげらるゝ事程左様に酒類の消費こそは這般の消息を最も明瞭に指針するものであるが、之を課税の對象とする去月中の第三種物品税（倉出し一石に付き五圓を徴せらる）を見ると

人員三五八　數量一、〇二一石　税額五、一〇五圓

で前月に比し百二十八石六百三十九圓の增加を示してゐる、右は戰時下とは謂へ漸次需要のシーヅンに入つた關係も勿論その一因であるが時局に對する左黨の心構へは今に初めぬ事乍ら未だ以てひき締め方が理想の域に程遠い感がある

原因は生產制限
減つたにならぬ　皮革や貴金屬方面

去月中に於ける物品販賣税中第一種第二種の該當者市郡合計二百三十名中、小名濱町家具商某、植田町靴商某各一名を除く期間內申告者二百二十八名、此の税額二百五十圓で前月より遥かに百五十圓を減少してゐる即ち賣上の激減を物語るものであるが、右は主として物資統制による靴並びに貴金屬製品の生產制限と季節的に生產さるゝ冷藏庫の製造休止に因るもので原因が他動的であり、大衆の緊縮を證據立つるものと觀る事は出來ぬ

入場税 增加
舊盆の一時的現象

劇場、常設館、麻雀營業等に對しては之亦縣課下の新税として入場料を徴收してゐるが去月中の入場税人員二萬三千四百七十八名、税額四百七十七圓で前月より四千八百二十一人百四十四圓を增してゐるが右は舊盆關係の享樂氣分が反映したもので時局下に於ける人心の推移を測る資料とはならぬ

いま放しては—と 税金調達に奔走
時局に躍る礦山關係者

これ戰時物資の大宗をなす石炭、鐵、銅等に關する限り、戰時下に於ける所謂礦山師の跳躍こそ目ざましいものがある、郡下現在の試掘礦區數は合計百三十九筆この試掘礦區税年額二萬二千圓中、根が自力で經營すると云ふよりも權利讓渡の然るべき相手を見つけて一攫千金を當て込むのが多いこの界隈丈けに區域の途てつもなく廣い礦區に比べて極めて少い税金乍ら之を納めらぬ向が昨今の處で四十口この税金約五千圓に上つてゐるが、折角之れ迄持ち怺へ乍ら、時期もあらうに礦山インフレの今日僅かの滯納から可惜礦區を公賣されては——との執着から其筋の督促に對しては電報で納入日を約束して來たなどもあり、お蔭で着々滯納の整理が行はれてゐると

增田氏『土』の叫び
農村經營講演會日割

石城郡農會では增田亮一氏を講師とし、左記日割で非常時下銃後に處する農村經營講演會を開く、增田氏は十三年間の官職をすて、農の國『デンマーク』に渡り一百姓として彼地農家に起臥その實况を研究し更に國民高等學校に入學研鑽を積んだ熱と實行の人である

十月一日平第四　二日大浦　三日夏井　四日神谷　五日高久　六日鹿島　七日山田　八日磐崎　九日渡邊　十日川部各小學校（各會場午後一時）

戸數割切符配布

平市十三年度前期分の特別税戸數割『納税切符』は昨二十日一齊に五千五百九戸の納税者に配布されたが當局では『犧牲奉公の精神を發揚して時局柄特に納期を遵守され、市財政の運行に遺憾なきを期せられたい』とこれが完納を望んでゐる

中等學校射擊大會
地元選手決る

來月二日浪江射擊場で擧行される縣下中等學校射擊大會豫選通り豫選への出場校は磐中、平商、双中、相農の五校。地元出場選手左の如し

（磐中）木田武夫、高木久渡邊一、小泉道朝、木村忠策

（平商）荒川利夫、阿部浩祐、粟谷英夫、野口隆男

鈴木清一郎

星野上等兵 小川村葬

去る六月四日安徽省鳳台縣魏家台子の戰鬪に於て名譽の戰死を遂げた小川村出身陸軍步兵上等兵星野高夫君の村葬は明後二十三日同村小學校庭に於て執行すると

けふ彼岸入り
秋愈よ深まる

けふ彼岸入り——きのふの雨に洗はれた山嶺がクッキリと碧空に浮んだ、萬頃の美田を渡る金風、野邊に亂れ咲く可憐な草花の姿に深み行く秋の感傷がわく、街を行く檀、花の賣買りの聲も澄んで寺々は彼岸迎への人の往き來。二日續きの嬉しい解放日も近い、舗道に鳴る下駄の音も明るくよいけふの彼岸入り。第一校では講堂で物故職員の慰靈祭を行ひ職員、生徒代表が物故職員の墓所に詣ふた

陣中を聽く
（244）

無言の勇士愛馬と 今や最期の地に上陸
市內新川町出身　丹野敬二君（通信）

——決死的さゝ若人に相應しい作業だ事が出來る様になつた、こなる草刈り作業。何しろ近くて敵は五十米より百米迄接近してゐる夜陰に乗じての作業です。城壁より細梯子より下りて殆ど腹這ひになつて進む面白いと云へば危險的な、つたでせうが、併し○○の不足には全く困りました。之も過去の思ひ出として田ひ出深い山西省を去る必殘さ、何かしら少し物足りない様な氣もしたが、何！ろ（略）配屬になり第一線迄行動を共にして來たのだから、併し七月二十八日配屬が解かれ山西省より脱するして八月一日山西省侯馬鎭より行軍して翌日懐しい臨汾に着きました、日々に穆り行く有様です。西瓜果實の當り年、十日出發一路石家莊へ（略）娘子關だそうです、山岳丈けあつて風光の美に富んでゐる。十三日着植松練馬將軍の慰問にあふあの勇壯なる姿に思ひがけも無く接することが出來たそして翌日そこから北京、天津、塘沽と（略）天津で約一時間停車一路塘沽に向ふ一年振りにて○○辨當にありつく二十五日早くもそこから本船に便乘、なつかしい去年の今日です（略）白河を上る、穏かな日和續き、途中○○密港、西洋風な建物　風光明媚なところ、幾艘もの○○船が碇泊してゐた、皆○○へ行く船でせう揚子江に入る、支那第一の大河にして海と間違はれる併しその急流なること一時間五浬だそうです。二十九日早くも南京着、高層建物が立ち並ぶ上に遥かに南京城壁が見ゆる、もうそこから先は軍艦が大分護衛して居て呉れる、飛行機が絶えず空爆をしてゐた。私達の進路は大体（略）らしいのです、長い航海に疲れ果てた我が愛馬、無言の勇士？も（略）九月三日愈よ○○着、本船より小舟にて幾馬諸共上陸する。たしかに石家莊より開けてゐるらしい、立流な家屋、アスファルトの道路、○兵さんが澤山上陸してゐた。

九月六日

平市新投影（十一）
超簡易生活
塵箱の設備が要らない　新川端住ひの日常

內郷から流れて來る坑內排水の爲に、勿論清冽珠の如しとは云はれないが沿道の塵を運ぶ新川の水は、けふも長閑に長橋から訓盲院へ、警察裏から月見町——ヘドン〱流れてゐるんである。丁度ヨヂム丁幾の様な色した水が。

〇

逝者如斯矣。實に億萬々年の昔より億萬々年の後に至る迄無限のスペースを流れて限り無く流れ行く時の流れを思ふ——假令そこの川つぷちに蹲くまつて水面を凝視した處で、前にある蘆花先生の云つた様な涼しい氣分なんか鴉の毛程も起つては來ないんである。

〇

ごみ！ごみ！の連發、朝掃除が終ると、夕方の掃き出しが濟むと雪白の割烹着をきた耳隱しの奥さんもアッパッパのだらしないなにがしの第二號も、一齊に川岸に出動に及んで、あられもない腰に一拈り波打たせる、見る間もあらせずパッと許りに流心目がけて投げ込むんである。亂れ飛ぶバナヽの皮、落花生の殼、お蓮の殘骸、大根の切り端し等、等

〇

それ證據に川つぷちの各戸にはゴミ箱と云ふもののあるのが左迄多くないから御らうじろ、自体其の必要が無いんである。市役所のゴミ自動車が來なくも、ひとりでに而も一日の澁滯なく其の都度綺麗に運んで行つて呉れるんである

〇

同じ税金を納めてんのにチットもゴミ屋が廻つて來ない——なんて愚痴るお方は此際斷然新川端に進出しては如何なもんか、蘆花先生の假寐を遣うんちや無いが——實に億萬々年の昔より億萬々年の後に至る迄無限のスペースを流れ行く——それが朝晩ゴミを運んで呉れるんだから重寶ぢやないんだらうか

〇

新川は今日も急がず慌てず流れてゐるんである

勇士の留守宅を覗ふ
非國民詐欺漢現る

去る十八日、目下前線で活躍中の市內紺屋町中野勇君の留守宅を訪れた二十五、六才の和服姿の男が『自分は勇君の戰友で第一線にゐて仲良くしてゐた』と戰地の模樣等をまことしやかに話した上驛にあづけた勇君からの小荷物送料と稱して金五圓を借り受けそのまゝ姿を晦した、平署で犯人嚴探中

弓道奉射會

平、石城、双葉、多賀合同皇軍戰捷武運長久の弓道奉射大會を二十四日飯野八幡神社境內で擧行

東日本丸 決る 保証
愈よ廿三日から 秋刀魚漁へ

保證問題で縣當局と東北振興會社との間に紛糾を見た東日本丸は一昨十九日の縣參事會で保證することになつて急速解決同船は十九日神奈川縣三崎港を出港、今二十一日夕刻迄に小名濱港內にその雄姿を現はすので町では二十二日晴れの出港式を擧げ愈よ二十三日から開禁の秋刀魚漁に從事する

。。。。。運轉手合格者

本縣自動車運轉手試驗合格者中地方關係左の如し

△普通免許＝（平）小松忠雄、江尻啓、馬上庄三郎（植田）片寄實、皆川彌三郎、蛭田良一

△就業免許（平）草野光、佐藤立身

井上家寄附

市內五丁目井上貞治郎氏は嚴父の死去に際し左の如く寄附

（各三十圓）小學校基本財產、平市軍事後援會（以下各二十圓）平市社會助成會、磐城訓盲院、平在郷軍人分會、平國防婦人會、刑事協會平支部、第三小學校兒童保護者會、五丁目青年團

お米は七分搗（主食改善奨勵）

平署管內精米、米穀商七十餘名は二十日午後二時から同署會議室に集り大須賀縣衞生課長臨席の下に主食改善について協議の結果中央の提唱通り無砂七分搗米の販賣奨勵を行ふこととなり近く平署、市役所、業者合同の宣傳ビラを配布する

。。。。けふ俵米共販

石城販聯の俵米定期共販は今二十一日行はれたが出荷左の如く前回より急激に出荷薄を來してゐる

平一九　平窪三七　草野五〇　渡邊七八　小川三八　勿來（大麥）五一

寄附

市內三丁目大平仲之吉さんは金十圓古鍛冶町佐藤善次郎さんは金五十圓を何れも市軍事後援會へ寄附

〇

市內五丁目齋藤家三郎さんは國防費として二十圓、五丁目青年團基金に五圓を寄附

〇

市內田町吉成一君は此程應召、餞別のうち金五圓を田町青年團へ寄附

。。。見習工試驗

平職業紹介所では二十五日午前九時から第一小學校で某株式會社の見習工採用試驗を行ふ、受驗希望者は詳細同所に問ひ合せの上申込まれたい

井上組頭盛葬
銀盃に死後を飾る

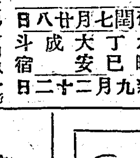
井上平消防組頭の消防葬は既報の如く今二十一日午前十一時迄自宅に於て一般の弔問を受け午後一時より關內副組頭委員長の下に第三小學校講堂に於て告別式を執行、終つて途中蜿蜒の葬列を以て本町通りを大寶寺に入り同家の塋域に埋葬されたが、末次內相代理緒方協會理事其他名士多數會葬各方面から贈られた多數花輪其他供物、弔辭弔電の山にその德望を反映せしめ地方稀な盛儀であつた、尚は消防事業に對する生前の功勞により賞勳局から銀盃を下賜され今二十一日傳達された

二十二日

（小名濱測候所發表）

滿潮　前二、三五　後三、四五

干潮　前八、四〇　後八、五〇



新 九月二十二日 木曜　舊 閏七月廿八日 丁巳　大安　成　斗宿

▲一白　油斷の生じ易き日氣を締めてとがなきを期せ▲二黑　先を見限らずに足元に注意しつゝ勵むべし▲三碧　よのくも行に卷き込まれず苦々と勵べき日▲四綠　口舌爭論を持ち込まれ易し取引は尤も注意▲五黄　根氣よく物にうまざれば發達のいとぐちを開くべし▲六白　努力をしますが苦を厭はず努力すれば効ある日▲七赤　助けば却つて氣運害ふ驕りもいましむべし▲八白　幾變せんなかさぬる日あせれば急轉直下の患あり▲九紫　目上の引立は十分あれば依頼心を起す勿れ

磐城名物　靈峰羊羹（れいほうやうかん）
小川郷驛前　平屋賣店

護國院殿葬送の際は遠路御會葬被成下殊に御鄭重なる御香奠を賜はり御厚志の段難有御禮申上候實は拜趨御禮可申上筈の處乍略儀以紙上御挨拶迄如斯御座候　敬具
昭和十三年九月廿一日
平消防組
副組頭 葬儀委員長　關內正一
嗣子　井上貞治郎

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平市田町（元合津醫院跡）電話五五九番

耳鼻咽喉科專門
入院隨意（病室完備）
大和田醫院
平市南町一六番地　電一七〇番

空冷式 健康陶枕
笑はれる程よく眠れる、疲勞倦怠を快復し精力記憶力を增進する實用新案の健康陶枕
效能
腦を酷使する人、腦神經衰弱の人は藥よりも この空冷式健康陶枕を……
高血壓症　のぼせ症
腦溢血症　耳鳴、頭痛症の方に
不眠症　特に卓効あり
特約店　平市五丁目　入江陶器店　電話五八二番

夜間診療
胃腸性病
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平市南町電一〇七番）
（見習看護婦募集）